

紙切れ？が動く！-ヒラムシ-

夏休みには、海水浴などで海に行くことも多いと思います。海べでは陸や川では見ることができない、昆虫や魚ともまったく違った、変わった体つきの動物を見ることができます。特に高岡市の^{あまはらし}雨晴や氷見市の^{あぶしま}氷見などの岩や石でできた海岸では、そのような動物を観察できます。

動く紙切れ？

名前のようにヒラムシは、たいへん薄い体つきで、まるで紙切れのようです。ヒラムシの仲間が、岩の上を^は這っていると、あまりに薄いので下の岩の模様が透けて見えるほどです。それではなぜ、こんなに薄い体なのでしょう。ヒラムシは扁形（へんけい）動物というたいへん原始的な動物の仲間に入ります。呼吸をするためのエラもなければ、酸素を体のすみずみに運ぶ血管もありません。そこで、体の各部分に直接酸素をとり入れる必要がありますが、厚い体だとそれができないので、平たい体をしているのです。

ヒラムシにはたくさんの種類があり、まだ何種類いるのか分かっていませんが、富山湾に多いのは、薄茶色のウスヒラムシや^{しよっかく}触角をいっぱいもったオオツノヒラムシなどです。いくつかの種類の標本は科学文化センターの2階ロビーで展示しています。



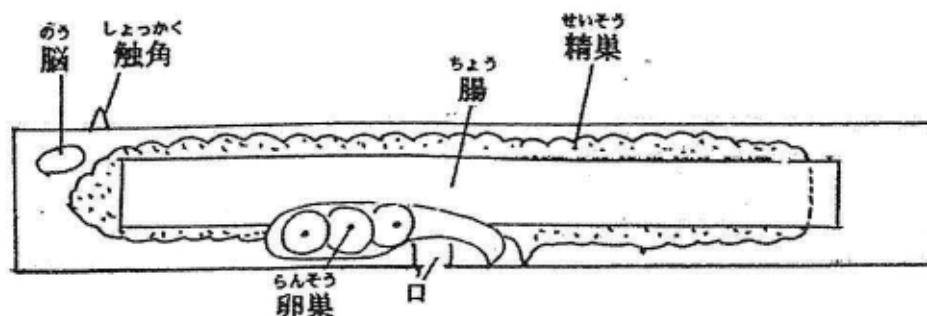
ウスヒラムシ



オオツノヒラムシ

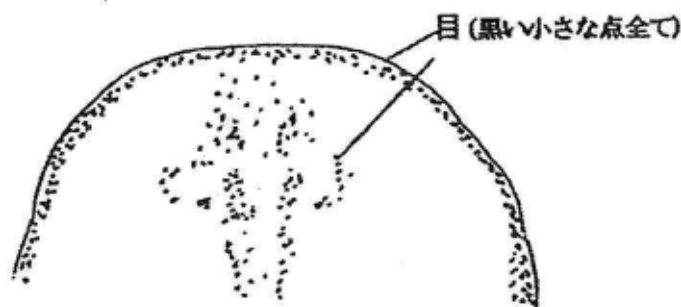
こうもん 肛門が無い

ヒラムシの口は体の中央の腹側にあります。しかし、肛門はありません。フンは口から出されます。口と肛門が兼用だとも言えます、このことはクラゲやイソギンチャク、サンゴなどでも同じです。



目はいくつ？

ヒラムシ類の目は多数あって、100個以上のものもあります。遠くから見ると、1個の目に見えるものが、虫めがねでみると数十個もの小さな目の集まりであったりします。そもそも動物の目の数は左右1対がふつうのように思われますが、原始的な動物では多数あることの方が多いのです。ゴカイでは4個、クモでは8個のものが多く、ホタテガイのように約50個もあるものがあります。もっとも私たちの目のようにはっきりした像をむすぶことはできず、明るさだけを感じるもののようです。



名前調べは科学文化センターで！

夏休みに標本を作ってみませんか。科学文化センターでは8月22日(日)に職員が専門の先生とともに標本の名前を調べる会を行います。この日は貝、岩石、化石、植物(海藻も)、昆虫も調べます。お天気相談会も行います。なお、富山湾の貝は主な種類をセンター二階のロビーで展示しています。(布村昇)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成11年8月1日発行